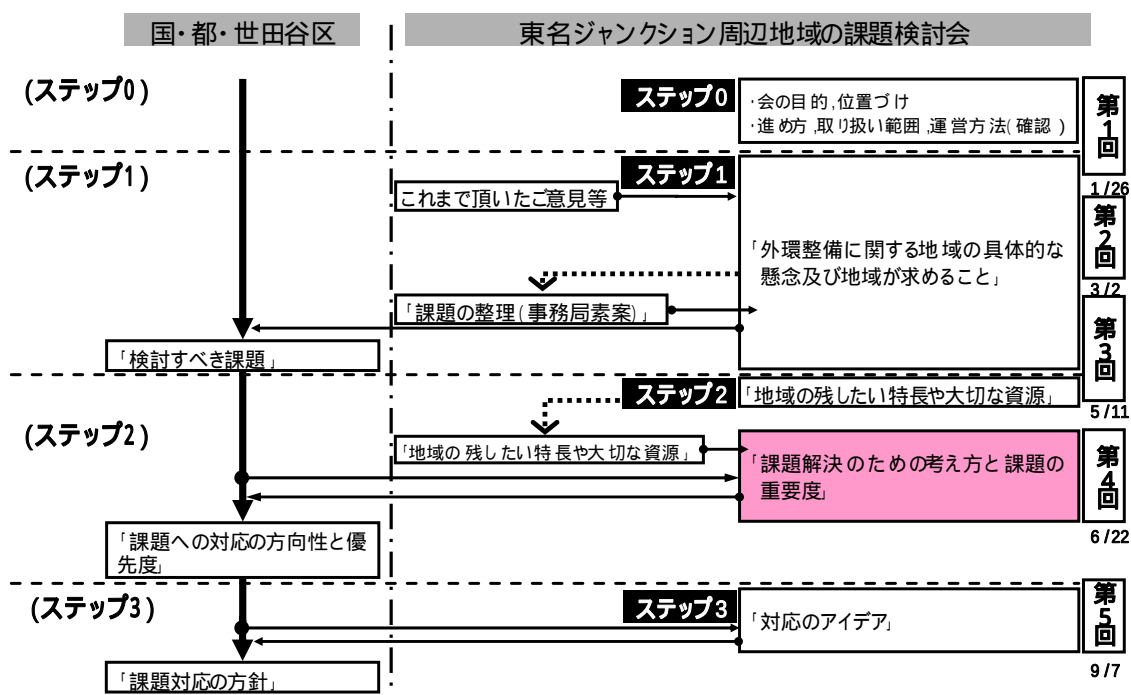


ステップ 2-1

課題解決のための考え方と課題の重要度

- ・メンバーが議論した内容と、課題解決のための考え方を掲載しています。
課題解決のための考え方は、各グループの進行役が、これまでの議論を踏まえてまとめたものです。



東名ジャンクション周辺地域の課題検討会 課題解決のための考え方と課題の重要度

【本資料について】

- ・本資料は、東名ジャンクション周辺地域の課題検討会において、ステップ2でのメンバーの議論の成果となります。
- ・この中には、メンバーが議論した内容と、課題解決のための考え方を掲載しています。
- ・課題解決のための考え方は、各グループの進行役が、これまでの議論を踏まえてまとめたものです。

東名ジャンクション周辺地域の課題検討会 メンバー

A グループ

(1) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

景観への影響や風が巻くという地域特有の現象に配慮し、換気所を殿山側に移動させ登り窯方式にする等の換気計画や、排気箇所の分散を検討することで大気や景観への影響の低減を。また、最新技術を活用して、排気ガスの十分な処理を。火葬場や焼却場などといったイメージをさせないようなデザインとし、緑化することなどにより景観に十分な配慮を。

環境

- ・1か所の換気所で排ガスを処理しきれぬのか懸念がある。十分な処理能力のある換気所を必要な箇所数分、整備することで、大気への影響への不安を抑制できる。
- ・トンネル内の排ガスすべての処理能力を有する換気所を整備することで、大気への影響への不安を抑制できる。
- ・地上部道路の排気ガスへの懸念がある。地上部道路を蓋がけして、内部の排気を換気所において浄化することで、大気への影響への不安を抑制することができる。
- ・東名の排気設備がどのようなものになるのか不安がある。中央線トンネルの素晴らしい排気設備をつくった技術力以上の力で対応することで、東名の排気設備への不安を抑制できる。
- ・現在の直立した換気所の計画では、景観が壊され、また風が巻くという地域特有の現象による大気への影響が懸念される。換気所の位置や構造を見直して、殿山側に移動し登り窯方式にすることで、大気や景観への影響を低減できる。
- ・ニョキニョキと煙突がたっていると火葬場・焼却場のイメージがあるため、デザインに不安がある。センスのよいデザインとすることで、それらをイメージさせないようにする。
- ・換気所の煙突の景観がよくないことへの懸念がある。煙突を緑化することにより、カモフラージュされて景観を和らげることができる。
- ・換気所は、道路の地下部分のどの範囲の排気ガスを集めて排出するのか。長い区間に排出された排気ガスがこの地域に排出され影響を受けることへの懸念がある。換気所の設置箇所を多くして痛み分けできないのか。
- ・東名の排気設備がどのようなものになるのか不安がある。中央線トンネルの素晴らしい排気設備をつくった技術力以上の力で対応することで、東名の排気設備への不安を抑制できる。

計画検討の進め方

(2) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

ドーム化、地下化、料金所のETC化など、大気、景観、周辺の農地等への日照などに配慮した構造で、住民に不安を与えないように。野川にかかる橋を残し、地域を分断しない構造に。緊急車両の動線や避難路を確保するなど、災害時の対応に配慮を。ジャンクション内や高架下などの特性を活かし区民の交流の場を。

環境

- ・地上部道路の排気ガスへの懸念がある。地上部道路を蓋がけして、内部の排気を換気所において浄化することで、大気への影響への不安を抑制することができる。
- ・大気や景観への影響への懸念がある。ジャンクションの完全地下化により、地上構造物が見えない状態になり、地上部道路の排気ガスもなくなる。
- ・ジャンクション周辺に農地があるため、地上部道路による日照阻害を懸念している。地上部道路を透明な蓋がけ（透明なドーム）にすることで、大気への影響も抑制され、農地も日陰にならない。
- ・高架道路を大きなトラックが走っているのを見たら周辺の住民は不安を感じるという懸念がある。通行する車が見えないよう、ドームで覆う構造とすることで、住民の不安を抑制できる。
- ・料金所における排気ガスの影響に懸念があるため、ETC 限定の料金所にして環境への影響を低減することを望む。
- ・地上部道路の排気ガスへの対策に懸念があるため、地上部道路全体に天蓋をつけて（ドーム化）排気することを望む。
- ・低周波音の影響を懸念しているため、他の事例を調べて補償の予算や、地上部の道路に天蓋をかける予算をあらかじめ入れることを望む。
- ・低周波音の影響を懸念しているため、透明な防音壁の設置により影響が低減することを望む。

まちづくり

- ・地域へのメリットがある施設を期待している。温泉施設ができることにより、地域交流の場となる。
- ・地域交流の場をジャンクション内に整備する場合、この場に適する施設が整備されるのかどうか懸念している。通常は騒音が問題になる公共施設（スポーツ施設等）を作ること、この場の特性を生かした整

備ができる。

- ・喜多見3丁目の高架下を、駐車場や仮設小屋などで有効に活用してほしい。

- ・動線もコミュニティも含め地域分断される懸念があるため、大正橋、茶屋道橋、水道橋+αはなくさないことを望む。

安全・安心

- ・高速道路内の火災時に消火が遅れると周辺部へ被害が拡大することを懸念している。喜多見6丁目付近の一般道から緊急車両が入れるようにすることで、災害時の対応ができる。

- ・災害時の避難路について懸念があるため、側道整備を望む。

計画検討の進め方

- ・周辺地域への影響に懸念があるため、必要スペースの小さいETC 限定の料金所にして事業の区域を縮小することを望む。

- ・排気ガスや騒音などの環境への影響、動線やコミュニティが分断されることなどの影響が心配なため、ジャンクションを完全地下化にしてほしい。外環を完全地下化と言うのであればジャンクション部の地下化も検討が必要だ。地上部であることへ懸念がある。

(3) 調査

【課題解決のための考え方】

外環整備前後を通じて環境の変化が把握できるように。PM2.5 や低周波音など現在調査されていない項目については最先端の知見を参考に。子供への影響にも配慮した基準設定を。調査は関係機関と連携をとりながら推進を。

環境

- ・健康への影響が懸念されるPM2.5 が調査されていないことへの不安がある。環境省の最新の基準に応じた調査を行うことで、どのような影響や変化があるかを知ることができる。

- ・PM2.5 以外にも調査すべき物質があるかもしれないという不安がある。最先端の基準に応じた調査を行うことで、調査対象に、調査すべき物質を含むことができ、これらが、どのような影響や変化があるかを知ることができる。

- ・外環整備によって子どもの健康への影響がどの程度おこるのかという不安がある。子どもを対象とした基準を設け調査することで、子どもの健康への影響に対する外環整備の因果関係がわかる。

- ・健康への影響などは国交省は専門外の分野であるため十分な調査ができないのではないかと考えている。専門機関である環境省や厚生労働省と連携することで、きちんとした調査を行うことができる。

- ・調査の信憑性への不安がある。信頼のおける調査業者を選定することで、調査の信憑性を高めることができる。

- ・外環整備によって大気質等の環境への影響や変化があるのではないかと考えている。整備の前後に調査し比較することで、外環整備の因果関係がわかる。

- ・低周波音は調査がされておらず影響について不安がある。調査によって、どのような影響や変化があるかを知ることができる。

- ・外環整備によって低周波音等の環境への影響や変化があるのではないかと考えている。整備の前後に調査し比較することで、外環整備の因果関係がわかる。

(4) 管理

【課題解決のための考え方】

騒音、低周波音、地盤沈下、地下水の枯渇や溢出等で生活に支障が出た場合への配慮を。

事前調査や定期的調査を行うとともに、基準値を超えた際の対策を計画に位置づけるなど、影響が生じた場合の対応が確実にとられるように。

環境

- ・整備後に低周波音等で生活に支障が出た場合、どのような対応がとられるのか懸念がある。被害に応じた対策や助成等の補償を行うことで、生活が成り立つようにする。

- ・騒音、地盤沈下、地下水の枯渇や溢出など生活への影響と、生活に支障が出た場合の対応を懸念している。補償を行うことで、生活が成り立つようにする。

計画検討の進め方

- ・大深度部分において、地盤沈下などのアクシデントにより生活に支障が出た場合、どのような対応がとられるのか懸念がある。補償を行うことで、生活が成り立つようにする。

- ・整備後に低周波音等で生活に支障が出た場合、どのような対応がとられるのか懸念がある。被害に応じた対策や助成等の補償を行うことで、生活が成り立つようにする。

- ・騒音、地盤沈下、地下水の枯渇や溢など生活への影響と、生活に支障が出た場合の対応を懸念している。補償を行うことで、生活が成り立つようにする。
- ・大深度、中深度、浅深度の影響の予測値をたて、事前調査、定期的調査を行い、基準値を超えた場合に対策をとるということを今後の運営や管理のための計画に位置づけられていないことへの懸念がある。
- ・国側が出している大気・騒音・振動などに対するシュミレーション値が本当に守られるのか懸念があるため、コンティンジェンシープランの作成や定期的な観測(予測を超えた際の対策(観測ポイントを含む))を望む。

(5) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

植樹や構造物の緑化など、地上部の構造物を隠す工夫を。
施設帯の幅を工夫するなど、神社などの地域資源に影響のないように。
区民利用施設の設置により事業の影響を受ける地域にメリットを。

環境

- ・地上部の構造物の景観が、周辺住民へ不安を与えることを懸念している。樹木を植えることにより、景観を和らげる。
- ・地上部構造物の外壁を緑化することにより、景観を和らげる。
- ・環境施設帯の予定区域内にある大六天神社がなくなることが心配。環境施設帯の幅を狭くするなどの工夫で対応できるとよい。

まちづくり

- ・環境施設帯の空き地へ区民利用施設を設置するなど、事業により影響を受ける地域にメリットがもたらされることを期待する。

(6) 周辺部の計画

【課題解決のための考え方】

現在の生活動線を踏まえ、地域コミュニティの分断を避け移動の利便性が下がらないように。また、高齢者の移動のしやすさにも気をつけて。
外環整備とあわせて周辺部も含めた地域の防災性の向上を。

まちづくり

- ・高齢者が多いため、移動時の利便性向上への期待がある。動く歩道のような橋とすることで、移動しやすくなる。
- ・現在ある生活動線は、地域コミュニティの分断や移動の利便性の面から、生活に必須のものであるため、なくなることへの懸念がある。これらを残すことで、地域分断がおきないようにする。
- ・細い生活道路しかなく大型の緊急車両が入れない喜多見6丁目などのジャンクション周辺地区で、災害時対応のまちづくりがないことへの懸念があるため、外環整備と一緒にジャンクション周辺地区の災害対策を考えてほしい。

(7) トンネル部の計画

【課題解決のための考え方】

避難路の確保など、災害や事故時に道路利用者が安全に避難できるように。

安全・安心

- ・トンネル内での災害時の避難方法へ懸念がある。しっかりした避難路が確保されることにより、不安を抑制できる。
- ・トンネル工事中の地盤沈下などが心配である。予期せぬ事態が生じた場合に工事を中断できる仕組みがあることで、被害の拡大を抑制することができる。

計画検討の進め方

(8) 工事

【課題解決のための考え方】

防音設備の設置や作業時間帯の設定により、工事中の騒音による生活への影響への配慮を。

問題があったら工事を中断できる仕組みとするなど、予測しない事態への対応に配慮を。

計画通りに工事が進んでいることを情報提供するとともに、工事途中の計画変更の際には住民に十分な情報提供を。

工事

- ・工事中の騒音が心配である。防音設備の設置や作業時間帯の設定により、騒音による生活への影響を低減できる。
- ・トンネル工事中の地盤沈下などが心配である。予期せぬ事態が生じた場合に工事を中断できる仕組みがあることで、被害の拡大を抑制することができる。
- ・福木トンネルのように、途中で計画が変更になっても知らされないことへの不安がある。住民への情報提供を十分に行うことにより、変更された計画内容を把握することができる。

(9) その他

【課題解決のための考え方】

大気への影響、換気所の処理能力、他事例における環境変化の状況に関するデータなど、環境影響や影響対策及びその根拠などの情報を住民が入手できるように。移転先や補償の協議などについては、生活や商売に直接関係があるため、個々の関係者に十分な配慮を。将来交通量予測等、将来の動向を見据えた計画検討を。東名以南を含めた計画検討を。地域課題検討会終了後、住民が連絡を取りやすいよう行政の役割と窓口を明確に。行政は住民の目線にたって継続的な情報発信を。

交通

- ・インターチェンジ周辺の道路が混雑して大気が汚染されるのではないかと心配なので、東名以南の計画を早期に進めてほしい。

環境

- ・整備後の大気や騒音の影響がどのようなものかわからないため、既存道路の環境調査データの提示により、影響を知りたい。

用地・補償

- ・計画地内の事業所を移転するには、資金の準備や用地選定などに時間を要するが、事業化しないと移転準備に入れないことへの懸念がある。事業化するのであれば、早期に事業化

決定することで、移転準備に入ることができる。

- ・スケジュールが早くわかれば、計画的に移転の計画をたてることができる。特に農地や工場の移転先を探すのは時間がかかるため、その点に配慮した情報提供が必要。
- ・農地の移転先には条件があり、土づくりに時間もかかるため不安がある。事業化のスケジュールが早く提示されることで、計画的に移転の計画をたてることができる。
- ・農地は土壌や人（所属する組織など）が変わると継続が難しいことへの懸念がある。現在の農地と同条件の代替地の確保により、移転しても農業を続けていくことができる。
- ・敷地の一部分が計画線にかかる場合、残地が売れるかどうかかわからず、不安である。一部分であっても、十分な補償がされることで、生活への不安の代償となる。
- ・計画地内の敷地に大木があり、移転の際、移植費用がでるのか不安である。移植費用が補償されることで、大木の移植も可能となる。
- ・計画地内の敷地に大木があり、移植時に枯れてしまうことを懸念している。枯れた場合の補償が出ることで、枯れた場合の対策が取れるので、大木の移植も可能となる。
- ・多摩堤通り周辺の事業所などが商売を継続できるようにする。
- ・計画地内で自動車整備業を営んでいるが、用途地域の規制で近くに移転先がなく、立ち退いても他では商圏が無く商売ができないことへの懸念がある。用途地域を見直して準工業地域の用地を近くに作るなど移転先が確保されることで、商売を続けることができる。
- ・将来的には、車が減ると思うがその点が考慮されているか不安がある。車両台数の予測等を踏まえた検討により、現実的な交通量に見合った計画をすることができる。
- ・福木トンネルのように、途中で計画が変更になっても知らされないことへの不安がある。住民への情報提供を十分に行うことにより、変更された計画内容を把握することができる。
- ・地域課題検討会終了後の国・都・区の役割と連絡窓口を明確にして、住民から連絡しやすくしてほしい。
- ・行政からの情報発信は、ホームページで検討会での住民の意見を掲載しておらず懸念を感じる。住民の目線にたって発信してほしい。
- ・検討会終了後も連絡窓口や情報提供、住民が疑問を聞ける場を作って欲しい。

計画検討の進め方

B グループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

コンペなどで複数のジャンクション構造案を提示し、それらを科学的なデータに基づいて比較検討をすることで、地域の自然環境や生活環境に影響の少ないジャンクションに。

環境

- ・ジャンクション全体を地下化し、大気、騒音振動、景観への影響を抑える。
- ・中途半端な対策案では、そのためにしわ寄せが出る地域が生まれるという危険があるので、全面地下化の可能性を検討する。
- ・自然環境の各要素など元に戻らないものには可能な限り手を出さず、現状を保全する。

まちづくり

- ・野川に架かる橋は、それぞれの地域の重要な生活の道となっているので、これらの機能はできるだけ変えないように確保する。
- ・大蔵5丁目から喜多見や宇奈根に行く際には日常的に大正橋を利用するため、現状とは位置をあまり変えずにその機能を残し、地域分断しないようにする。

計画検討の進め方

- ・ジャンクション全体を地下化できれば地域への影響は小さくなるはずだが、現計画案の1案だけを押し付けられているようで、そういう可能性が十分に検討されているのか疑問である。現行案に縛られず、民間からの案を含めた複数案を提示し、それらのメリット、デメリットを科学的なデータに基づいて検討して比較する事で、何がベストな案なのか判断できる。
- ・大橋ジャンクションなどの既存ジャンクション構造の採用、ジャンクションのドーム化など、様々な観点から可能性の検討を行う。

(2) 調査

【課題解決のための考え方】

環境影響の調査地点や回数の増加、他事例の検証、第三者機関のチェックなどを実施し、外環整備の影響に関して住民が納得のいく十分な説明と新たなデータを反映した計画に。

計画検討の進め方

- ・現状のデータは外環から離れた場所で測定しているため、影響がないと言われても信用ができないので、影響が大きいと思われる道路に近い箇所や喜多見小学校や砧小学校など測定地点を増やしてデータを把握し、その数値を反映した計画にしてほしい。
- ・これまでの調査だけで十分なのかという懸念があるため、季節によって風向きなどの大気の様子が変わることを考慮し、環境調査は年間に複数回実施する。
- ・外環完成後の影響評価のための物差しとなる現況の正確なデータを収集することで、今後の環境の変化を把握し、問題が起きた際の対処ができる様にする。
- ・先行事例の反省が生かされず、同じ過ちを繰り返すのではないのかという懸念がある。予測データは操作が可能であることも考えると、信頼性のある事例検証による影響の把握を行うため、外環が完成済みの区間におけるデータを検証することが必要である。
- ・予測方法、B/Cの前提、計算方法が明確に提示され、委員選定を公正かつ明確にした第三者機関による調査結果の検証が行われなければ、外環の必要性を示すために恣意的にデータを操作しているという懸念を解消することはできない。
- ・完成後に環境が変化するのは明らかで、住民の強い関心事でもある。変化を見るためには物差しとなる建設前のデータをしっかり取る必要があり、調査地点や回数を増やし、納得のいくデータを示してほしい。

(3) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

換気所の位置や数を複数案の比較によって検討し、一部の地域だけにしわ寄せがいかないように、また、できる限り自然、生活環境への影響の少ない換気所となるように。

計画検討の進め方

- ・悪影響を分散するという考え方もあるはずなのに、料金所、換気所という排気が出る要素がこの地域に集約されており、現状の換気所の設置位置、数では、この地域だけにしわ寄せがきているように思われる。一定の地域だけが大きな影響を受けない様に、換気所の数を増やしてデメリットを分散する可能性を検討する必要があるのではないかと。
- ・現行案がベストであるならば、現状の換気所の設置位置、数が技術的に最適だという根拠や決定までのプロセスを示す必要がある。
- ・現行案がベストな解答であると判断する材料がない。換気所の位置や数に関する計画を複数案提示し、そのメリット・デメリットを科学的データを判断材料に比較検討する必要がある。

(4) 計画検討の進め方

【課題解決のための考え方】

外環整備の効果、計画案の技術的妥当性、環境影響調査の信憑性を科学的なデータを用いた具体的な説明によって明らかに。東名以南の計画は以南ができたことを前提としたデータも検証してから改めて検討を。

計画検討の進め方

- ・根本的に外環の必要性に懸念がある。外環の整備効果として示されているデータには恣意性も指摘されており、指標としての信憑性に欠けるので、それらの信頼性と妥当性を事例を示しながら説明してほしい。
- ・基本的には作って欲しくないが後戻りは難しいと思う。できるだけデメリットを減らす視点から前向きな議論をするために、計画案の技術的妥当性、環境影響調査の信憑性などの情報を十分に開示してほしい。
- ・情報開示を求めても対応がなされないと不信感が増幅するため、住民が懸念を抱き、情報を求めている事柄については、具体的な根拠を示して誠実な対応を行い、その情報の周知を図る。

(5) 工事

【課題解決のための考え方】

工事期間中も生活道路の機能を確保し、地域の安全が保てる工事計画を検討することで日常生活への影響を最小限に食い止めるとともに、児童生徒の安全性を確保するための対策と工事期間や工事車両計画の情報の周知を。

まちづくり

- ・分断されてしまう生活道路は工事中も生活道路の機能を確保し、日常生活に支障がないように検討する。

工事中

- ・工事中の地域への影響、特に幼稚園、保育園、小中高等学校の児童、生徒の安全性への影響を最小限に食い止める様に留意し、工事車両数や通過時間帯などを明記した工事計画の情報を住民に周知することで不安の軽減を図る。

計画検討の進め方

- ・待機車両を含めた工事車両の駐車場の確保。
- ・工事期間中の工事車両による渋滞や騒音、排ガスについても気になるので、どのようなルートで行き来するのかを明らかにしてほしい。
- ・ジャンクション構造の見直しを行う場合でも、その比較検討材料として工事期間や工事車両計画をデータとして取り上げ、工事車両に関する情報は計画に関する情報の重要な要素である事を示す事で、工事期間への不安を軽減する。

(6) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

外環整備によって失われる生活道路の代替機能を確保するとともに、単なる緑化にとどまらず、地域の新たな資産となる様に、また、市民の貴重な憩いの場である野川沿いの空間を上手に利用して地域の新たな資産となる様に。さらに、安全・安心して利用できる様に防犯面の対策を。

環境

- ・掘割部に中途半端に蓋掛けを行うと、それによってかえって大気汚染の影響を受ける地域が出ることも考えられるため、場当たりの対策ではなく、総合的な環境悪化への懸念が解消される様な検討を行う。

まちづくり

- ・蓋掛けした掘割上部を喜多見ふれあい公園の様に活用したり、環境施設帯に単に芝生と松を植えるだけではない緑地計画を行って、地域の

新たな資産を生み、緑の環境がより良くなって地域にメリットをもたらせる様にしてほしい。

- ・外環整備に伴い分断される生活道路は、環境施設帯を利用して確保することで、生活道路の分断を避け、日常生活の利便性を維持する。
- ・野川に架かる橋を環境施設帯に確保して現状の機能をできるだけ変えずに維持し、地域が分断されることを避ける。
- ・散歩道としても使われている野川沿いの道とそこへのアクセス道路を確保し、住民の憩いの場としての環境を守る。
- ・大蔵5丁目を抜けて多摩堤通りに抜ける道は地元住民に通勤などで日常的に使われており、地区外からの通過交通も多いので、代替の道路を確保すると同時に、周辺の道路の処理を検討してほしい。

(7) 周辺部の計画

【課題解決のための考え方】

外環整備に直接かからない生活道路はあえて整備することを避け、また、整備の影響を受ける生活道路は環境施設帯などでその機能を確保することで、現状の生活環境が極力維持するとともに、周辺のまちづくりの検討は住民に諮りながら進めるように。

環境

- ・今の乱開発のない静かな生活環境は、道路基盤が整備されていないがために守られているとも考えられることから、外環整備に直接掛からない生活道路はあえて現状を維持することで、外環整備を理由に周辺の環境が変わってしまうことを避ける。

まちづくり

- ・農協跡地など、計画線外であっても、外環建設に伴って取得した土地に関しては、その後の利用方法も含め、住民に諮りながら検討し、まちづくりに寄与するようなものにしてほしい。

(8) 用地補償

【課題解決のための考え方】

地権者等の影響の大きい住民に対しては、用地補償やスケジュールに関する説明の強化と現状の住宅環境レベルを維持できるような配慮を。

用地・補償

- ・地権者に対しては、個別もしくは説明会などを通じての用地補償などに関する十分な情報提供を行う。
- ・用地補償については、農地だけでなく宅地も補償してほしい。年月がたった建物は評価ゼロとされてしまっては困る。土地だけではなく建物の評価もしてほしい。贅沢がしたいわけではなく、現状と同程度の住まいが確保できることを望んでいる。

(9) トンネル部の計画

【課題解決のための考え方】

大深度トンネルの生活の安全性や自然環境への影響に対する懸念に対応し、地盤や野川の湧水への影響等に関する十分なデータ収集と情報公開を。

計画検討の進め方

- ・大深度トンネルが掘られる所の地層は粘土層なので地盤が弱いはず。そんなところにトンネルを掘ったら、地盤沈下や野川の湧水への影響などの問題が起こるのは明らかではないのか。凍結工法やトンネル連結部の NATM 工法などが本当に採用可能な地盤なのか疑問である。

Cグループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

自然（緑、小川、動植物）や、昔ながらの田舎の風景を残すとともに、景観への影響を低減する構造物に。地下化も含め、複数の構造案を比較して、地元と話し合いながら全体的視野での検討を。一方で日本の大動脈に支障の無いよう、また、地盤の状況も十分に踏まえ、きちんとした計画を。

交通

- ・日本の大動脈である東名高速まで渋滞すると思われる無理なアップダウン、きついカーブ、トンネルの出入り、T字路、三車線に三車線の接続などの過去の計画をあきらめて、きちんとした計画を立て、日本経済に甚大な被害を及ぼさないようにすることが重要である。

環境

- ・外環整備が進むことで、地域に昔からあった貴重なもの（東京の田舎の風景、自然）が失われることが心配なことから、地上部については、緑や小川、動植物等と触れ合える昔の田園風景を復元した緑豊かな公園として整備することが重要である。
- ・人工河川である野川は30年で自然豊かな川となった。ジャンクションを地下化することで、この豊かな野川の自然を残すことを期待する。
- ・景観への影響を低減する方法として地下ジャンクション方式を十分に検討してほしい。
- ・せっかくできた自然を壊してほしくない。現在の計画では世田谷区は大深度でやる部分が20%しかない。もっと地下化エリアを増やすことを検討してほしい。
- ・野川周辺の崖線部分などは地盤が弱いので、むしろ野川直下を通すようにしてほしい。

まちづくり

- ・外環整備が進むことで、地域に昔からあった貴重なもの（東京の田舎の風景、自然）が失われることが心配なことから、地上部については、緑や小川、動植物等と触れ合える昔の田園風景を復元した緑豊かな公園として整備することが重要である。

計画検討の進め方

- ・現在のJCTの計画が進むことで、地域に昔からあった貴重なもの（東京の田舎の風景、自然）が失われることが心配なことから、地域の視点に立ち、地下化も含めたJCT構造の見直しや複数案を提示することが重要である。
- ・ジャンクションの構造を複数案示して意見を聞いてほしい。
- ・ジャンクション部の構造の検討は複数案を提示するなどして、全体的な視野で自由話し合うことが重要である。
- ・東京は日本の玄関口であるのだから、ジャンクション部の構造の検討は複数案を提示するなどして、全体的な視野で話し合うことが重要である。
- ・検討は、複数案を提示するなどして、全体的な視野で話あうべきである。

(2) 周辺部の計画

【課題解決のための考え方】

環境（大気、景観など）への影響や対策を地域住民だけでなく、国立成育医療センターなどの地域の関係機関が計画を進めてもよいといった証明書を出すなどし、地域の組織として責任を果たすようにする。自然や景観の保全のため、樹木の積極的な保存や、用途や建築の制限の導入も。東名以南の延伸が遅れることで、周辺道路の混雑や生活道路への侵入について、広域的、多角的な面からの予測や十分な調査を。

環境

- ・大気質をはじめとした周辺地域への環境に関する影響や対策を地域住民だけでなく、関係機関、特に環境や人体に直接関係のある仕事や研究をしている関係機関へ情報を出し、意見を聞き、考えを知ることが重要である。
- ・大気質をはじめとした周辺地域への環境に関する影響や対策を地域住民だけでなく、関係機関、特に環境や人体に直接関係のある仕事や研究をしている関係機関へ情報を出し、同意を得る仕組みをつくることを期待する。
- ・事業実施により、自然を失い、景観が壊れることを懸念していることから、用途や建築の制限を検討して対処することが重要である。
- ・事業実施により、自然を失い、景観が壊れることを懸念していることから、保存樹木を積極的に指定して対処することが重要である。

計画検討の進め方

- ・東名以南が延伸されないまま東名ジャンクションが整備されるとジャンクション周辺の道路が渋滞すると思われ、それらが生活道路へ影響を及ぼすことが心配なので、人口動向や生活道路での将来的な広域的、多角的な交通量調査をすることが重要である。

(3) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

換気処理能力が十分なのか、人体へのリスクやPM2.5への対応が十分なのかをわかりやすく、詳細なデータにもとづいた計画、施工を。換気所を複数設置して、リスクの分散を。また排気ガスに伴う被害に対して補償や優遇措置を。地域の田舎らしい風景になじんだ換気所のデザインを。

環境

- ・人体へのリスクや、PM2.5への対応をどのようにするのか心配で、換気所の処理能力が満たないと考えているので、処理方法等で解決することが重要である。
- ・換気所を複数箇所設置するなど、詳細なデータのもとに計画・施工してほしい。
- ・かつてあった田舎の風景を失うことが心配なことから、地域へ構造を公表し、地域と協議しながら、地域の景観に馴染んだ換気所の設置をしてほしい。

計画検討の進め方

- ・設置箇所を増やすなど、詳細なデータをもとにリスクが分散できる、環境に配慮した計画・施工をしてほしい。
- ・換気所の設置場所決定の理由を知りたい。設置箇所を増やすなど、詳細なデータをもとにリスクが分散できる、環境に配慮した計画・施工をしてほしい。
- ・換気所周辺住民に対して排気ガスに関する補償や優遇措置をとってほしい。

(4) 調査

【課題解決のための考え方】

地下水や井戸への影響や大気質、騒音、また、オオタカなどの希少生物の状況などについて、PM2.5など新たに懸念される項目も含めて十分な調査と地域への報告を。調査結果や事例の評価をもとに、対応策の検討を。災害時や平均から外れた場合の検討も。

環境

- ・大深度工事の地下水や地盤への影響調査を実施して報告することで、地下水や地盤への影響がどの程度なのか、特に自分たちが居住している場所について、影響がある場合の対応はどうなのか、情報を出すことが重要である。
- ・井戸等の水質影響調査を実施し、地下構造物がつくられても平常時は勿論、非常時の生活用水が確保されるのか、影響がないのかを確認することが重要である。
- ・昔あった環境が破壊されることが心配であることから、オオタカなどの希少生物についてなど、環境に関する影響調査をきちんと実施し、影響がある場合は、対応策や代替案を検討し、報告することが重要である。
- ・PM2.5など新たに環境や身体に悪い影響を及ぼすと懸念されるものについては、環境影響調査の項目に入れる検討を進め、検討状況を地域に説明し、人体や環境への影響をきちんと調査し、処理能力が不足しないよう、処理方法を検討することが重要である。
- ・成城4丁目野川沿いの大深度部分は地盤が軟弱であるため、地盤沈下などの詳細な環境影響調査をしてほしい。

安全・安心

- ・地質調査や活断層の調査を実施し、地下構造物の影響により、非常時への影響を解決することが重要である。

計画検討の進め方

- ・大深度工事の地下水や地盤への影響調査を実施して報告することで、地下水や地盤への影響がどの程度なのか、特に自分たちが居住している場所について、影響がある場合の対応はどうなのか、情報を出すことが重要である。
- ・今回の計画による環境影響調査だけでなく、現況の清掃工場の排気ガスなど、この地域に影響している全てのことを考慮した複合的な視点に立った環境調査と計画を期待する。
- ・成城4丁目野川沿いの大深度部分は地盤が軟弱であるため、騒音・振動などの詳細な環境影響調査をしてほしい。
- ・騒音・大気については、平均値のデータでない詳細なデータをもとに検討してほしい。
- ・中央環状線の例で具体的な数値を見て、評価してから検討し、計画に反映させてほしい。

(5) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

昔から地域にあった農業、交流等を復活させ失われる農業、緑、ふれあいを生み出すような空間の創出を。

まちづくり

- ・昔栄えていた農業がものをつくるという事が失われることが心配であることから、計画によってさらに失われるもの（農業、緑、触れ合い）について、農業をツールに復活、代替することが重要である。
- ・地上部の利用として、畑をつくって住民に開放し、有効利用と地域還元を考えてほしい。
- ・緑地部分を地域に開放して緑地・農地として活用させてほしい。

(6) 工事

【課題解決のための考え方】

トンネル工事によって、振動や火災、水質汚染などの影響が生じないように。事例や実験も含めて情報の提供を。

工事中

- ・トンネル工事による、振動・火災・水質への影響について、事例や実験結果を開示してほしい。

(7) その他

【課題解決のための考え方】

東名以南へ延伸されることで、首都圏の高速交通網の完成と渋滞の解消を。交通量の管理なども含めた渋滞対策も。地域との十分な協議の時間を。地域住民への丁寧な対応や情報提供、また、しっかりとした引き継ぎで不安を取り除いて。

交通

- ・外環本線は、運送用の車両を優先させるなど交通量を管理することにより渋滞緩和してほしい。
- ・東名以南を含め、外環を東京湾へ通じさせる計画を大前提として検討してほしい。
- ・東名以南の計画と東名東京インターチェンジの利用を合わせて考えることを期待する。
- ・東名以南の延伸し、外環が整備されることで、首都圏の高速交通網が完成し、渋滞が解消されることが期待できる。

環境

- ・費用を重視し、時間の省略や手間を省くのではなく、地域と充分協議する時間を設けて、将来を見据えた整備方法について検討することが重要である。

用地・補償

- ・行政からの反応がないことや、やりとりができないことが不安であるので、地権者や地域住民に丁寧に対応し、情報提供することでそれらを解消することや柔軟な対応が可能であることを示すことが重要である。

計画検討の進め方

- ・費用を重視し、時間の省略や手間を省くのではなく、地域と充分協議する時間を設けて、将来を見据えた整備方法について検討することが重要である。
- ・行政の担当者が変わることで、対応も変わることがないように仕組みづくりをして、継続した討議を続けられるようにすることが重要である。
- ・新しく住民になる人たちにも正確な情報を知らせるなど、十分な対応をしてほしい。
- ・周辺住民などに排気ガスによる影響が出た場合、補償や優遇処置をしてもらえるか心配である。

D グループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

地域にとって迷惑施設とも言えるジャンクションは、料金所や道路勾配などを見直し、野川や多摩堤通りの付替えも含めた幅広い検討等を通じて、できる限り地下化し、環境に配慮を。

環境

- ・高架方式から大深度地下方式への変更で、外環沿線の影響が地上部の周辺地域に集中し、不公平な負担を強いられることになった。影響を低減させるために、50年、100年先を見た長期的な視点で、最高の技術を取り入れて、地下になる部分をできるだけ増やし、地域の環境に与える影響を可能な限り少なくすることを望んでいる。
- ・外環に入る側の掘割路に料金所を配置することで地域の生活環境への影響が心配である。地下になる部分ができるだけ増えるように、料金所のふたかけによる地下化や配置計画の再検討をしてほしい。
- ・これまで料金所の地下化を要望してきたが、料金所の職員への健康被害などの理由で地下化はできないとの回答である。地下に料金所が設けられている例はあるので、外環でも地下化してほしい。
- ・料金所には勾配を設けないため、その分、道路延長が長くなり、地上部が増えている。野川の上部を利用するなど、東名高速道路側に料金所の配置計画を再検討してほしい。
- ・ETCの普及やタグを使用した課金システムが開発されれば、料金所自体が不要になるかもしれないので、料金所の配置計画を再検討してほしい。
- ・水道橋から野川の上流を望む際に見える、山並み景観を活かした整備をしてほしい。

計画検討の進め方

- ・東名高速へのランプの線形が崖線への影響を軽減させるための最良の内容になっているか判断がつかない。自分でも提案したいので、道路勾配やカーブの条件（道路構造令・技術基準）を示してほしい。
- ・地上部の環境への影響が心配である。地下になる部分を増やすために、野川や多摩堤通りの付け替えも含めて、ランプを東名高速道路の高架下に通す検討をしてほしい。

(2) その他

【課題解決のための考え方】

環境影響の軽減に大きく関与する東名以南の延伸について、同時着工を含めた早期実現を。東名以南地区の計画地内の宅地化については、事業化がスムーズに進むよう、計画内容・整備時期の情報周知を。用地買収にかかる地権者等には、移転時期等の条件を明確に。

環境

- ・東名以南が整備されない状態では、一括整備に較べて地域への環境などの影響が大きくなるのが心配である。影響を少なくするために、東名以南の整備を早く進めてほしい。

計画検討の進め方

- ・東名地域への影響を軽減するために、東名以南の延伸が確実に推進される必要がある。東名以南の同時着工を含めて検討してほしい。
- ・当地区の事業化着手と引換えに、東名以南の事業を進捗させるというルールをつくり、東名以南の早期延伸を実現させてほしい。
- ・東名以南の計画地で、今でも宅地開発が進んでいるのが心配である。東名以南の延伸を進める際に、事業化進捗に影響が生じるかもしれないので、南伸の事業化に関する情報や購入者等は移転が必要となることを周知しておいてほしい。
- ・東名ジャンクション以南への延伸がスムーズに事業化されるのかについて懸念している。計画どおり、10年後に供用開始されるように検討をすすめてほしい。
- ・東名以南の整備が放置される可能性もあるので、東名以南が整備されないことも想定して最善の対応を考えるべきである。
- ・圏央道の整備進捗も含めて交通体系を予測し、東名以南の計画見直しの検討も必要である。
- ・現在の計画は上下線で2本のトンネルを掘る計画である。暫定的に1本だけ整備を進め、上下1車線ずつで供用し、その効果と影響を確認しつつ信頼性の高い整備が進められることを望む。
- ・立ち退きによる住民の負担が心配である。負担を最低限に抑えるために、地下になる部分をできるだけ増やす工夫をしてほしい。
- ・移転時期等の条件が不明確であり、近くに移転先が見つかるかわからないなど、将来の生活設計が不安である。用地買収に入る時期を明らかにしてほしい。

用地補償

(3) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

沿線全体での公平な負担を考えた換気所の分散配置や、最新の浄化技術の導入、坑口部分の排気ガス対策などで良好な大気環境を。将来を見通した環境関連技術や交通需要を踏まえた検討を。風洞実験などを通じて、ヒートアイランド現象やビル風の発生等に配慮した構造に。

環境

- ・外環地下部で排出される排気ガスが、地上部にあたる地域だけに集中することが心配である。外環沿線全体での負担の公平性を考えて、沿線に当る場所に換気所を分散させて、当地区の換気所を小規模にしてほしい（中央環状新宿線を参考に換気所を分散してほしい）。
- ・トンネル坑口から漏れ出す排気ガス対策のために、坑口の地上出入口側にも換気所を配置してほしい。
- ・換気所の形態が板状の大きな壁となり、野川沿いの風を遮り、周辺でヒートアイランド現象が発生すると思う。丸い形状や向きを変更するなど、風を遮らないデザインを工夫してほしい。
- ・殿山の上の地区は、目の前に換気所の排気口ができるので、どのような影響が生じるのか心配である。田直地区は崖線に加えて、ジャンクション構造物や道路の防音壁、換気所に囲まれることになり、ビル風の発生が心配なので、風洞実験をしてほしい。
- ・沿線地域の公平な負担が達成されないと換気所が設置される地域住民の協力は得にくいと考えられる。沿線地域に納得してもらえる計画とするため、沿線地域の公平な負担と公平な便益供与の観点から計画を見直し、換気所問題を解決することが重要である。

計画検討の進め方

- ・換気所には脱硝・脱塵装置など最新技術の浄化装置を設置して、換気所からの排気ガスの影響を少なくすることが必要である。
- ・人口減少等による交通量や、電気自動車などの普及により環境負荷が少なくなるかもしれない。必要となる環境対策を見直して、まずは1／10程度の換気所を設置し、必要に応じて大きくしていくことが必要である。
- ・換気所の整備事例の視察や映像資料（ビデオなど）で説明してほしい。
- ・外環の整備に合わせて高速バス等の公共交通網の充実を望んでいる。中長距離バスの路線設置や使用しやすいバス停を整備し、沿線のバス停の出入口に換気所を整備して、換気所の分散を検討してほしい。

(4) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

大正橋、茶屋道橋、水道道橋など、分断の恐れがある生活道路の機能の確保を。外環地上部での大規模事故の発生時に対応できる避難スペース等の確保を。住民の目の行き届く治安の良い場所に。

まちづくり

- ・喜多見5丁目と6丁目をつなぐ大正橋、茶屋道橋、水道道橋が分断されることが心配である。生活道路として利用しているので外環整備後も残してほしい。
- ・外環の地上部で燃料や危険物等を積載した車両の事故発生時に、安全性が懸念されるので、避難スペースや緊急車両の対応策などを確保してほしい。

安全・安心

- ・地下通路などの人の目の届かない危険な場所になるのではないかと心配である。

(5) 周辺部の計画

【課題解決のための考え方】

段階的な道路網の充実などにより、閑静な住宅街の環境の維持を。ジャンクションが地域に与える影響を補償し、地域に不足している施設整備や緑化などにより地域にメリットがある計画に。

交通

- ・地域の道路網が未整備の状況では、生活道路の交通量が増大し、静かな住宅街の住環境の悪化が懸念される。都市計画道路などの幹線道路による段階構成を整備して、成城地域の閑静な住宅街の環境を維持してほしい。

まちづくり

- ・どのような対策を講じても外環は東名地域の環境への影響がゼロにならないことを心配している。周辺地域を対象とした補償を考えるべきであり、地域に不足している施設整備や緑化などプラスの影響を与えるようにしてほしい。

(6) 管理

【課題解決のための考え方】

環境への負荷の大きいガソリン車等の通行料が割高になる料金体系を導入するなど、地域への環境影響を軽減させる対応を。現在では想定できない新たな課題の発生に備えてPI等の検討体制の整備を。

環境

- ・環境への負荷が少ない自動車が今度普及していくと思う。環境への負荷が大きいガソリン車などが外環を通過しないように、10倍くらいの通行料にして、東名地域への環境影響を軽減させることが重要である。

計画検討の進め方

- ・説明会では、さまざまな質問に対して「大丈夫である」と回答しているが、整備後に環境への影響が発生した場合の対応策が必要である。
- ・各地で新しい道路ができると新しい公害が発生しているが、症状が明らかとなり、原因究明や対策が講じられるまでに長い時間がかかる。長期的に観測を続けることが必要である。
- ・完成後に現在では想定できない問題が発生するだろう。モニタリングだけでは不十分であり、想定外の問題に対応できる体制を備えるべきである。そのためにも、完成後もPI継続すべきである。

(7) 工事中

【課題解決のための考え方】

東名以南の早期着工により、工事期間の短縮を。交通渋滞や騒音、排気ガスなどの環境面や、交通安全、治安面などに影響が出ないように。

計画検討の進め方

- ・東名以南を整備する際に、再度工事を行うのではないかと心配なので、地上部分だけでも同時に整備してはどうか。

交通

- ・東名以南の工事も含めると10年以上の工事期間に長期化することを懸念している。現時点での東名以南の見通しを示して欲しい。

工事中

- ・現在でも世田谷通りや多摩堤通りは渋滞しており、工事車両が出入りするようになると、さらなる混雑が心配されるので、渋滞の緩和を望む。
- ・工事で人が地域に出入するので、地域の風紀が悪化しないようにする。
- ・掘り出される土が土壤汚染されている可能性もあり、残土の処理方法を示してほしい。
- ・工事中の騒音や、工事車両の停車時のアイドリングによる排気ガスの影響を軽減する対策が必要である。

E グループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

現計画の料金所・掘割部分を含めたジャンクション部の完全地下化等に関して検討し、大気質への影響の低減を。地下化は、海外の実例にならないながら、外部の民間の知恵も入れた画期的な計画に。コミュニティの分断や生活利便性の低下などを招かないように。ETCの義務化や曲線部の半径の減少も含め、新しい考え方の導入を。

環境

- ・料金所等の現計画の掘割部分を地下化することにより、外環からの排気ガスによる大気質への影響をなくすることができる。
- ・ETC化することにより、料金収受に伴う自動車の加減速時の排気ガスを制限できる。
- ・ジャンクションの構造物を覆うなどにより、環境悪化（大気質）を最小限にしてほしい。
- ・ジャンクションを地下の螺旋状の構造することにより排気ガスの地域への拡散を防ぐことができる。
- ・ジャンクション部分を地下化するなどにより、地域への影響を最小限にしてほしい。
- ・ジャンクション部分を地下化するなどにより、景観に配慮した計画としてほしい。
- ・ジャンクションの全面地下化できない理由が一定速度の通行を確保するために必要な曲線部の半径が確保できないことであるのならば、制限速度を下げればよいのではないか。速度が下れば排気ガスや騒音、振動などにも効果が期待される。
- ・掘割部への蓋かけにより、周辺地域への排気ガスや騒音の影響を軽減できる。
- ・ジャンクションをできる限り地下化することにより、地域環境への影響を軽減することができる。野川が地下化の障害になっているのであれば、同時に野川も改修することにより、地下化が可能になるのではないか。
- ・料金所を無人化(ETC)による料金所部の幅員の減少が蓋かけも可能にし、周辺地域への騒音の影響を軽減できる。

まちづくり

- ・ジャンクション部を地下化することにより、コミュニティの分断や生

活利便性の悪化など地域住民への影響を大幅に軽減できる。

- ・外環整備を契機として、高圧線も地下化するなど、より地域がよくなるようにしてほしい。
- ・東名高速道路が地下化ができれば、外環整備によるデメリットだけでなく、地域へのメリットがある。
- ・東名高速道路もあわせてジャンクション部分を地下化し、上部を公園として整備するなどにより、環境悪化を最小限にしてほしい。
- ・料金所部分（幅員が広い）の地域分断に対して、橋を架けるなどの対応が必要だろう。
- ・複数案のモデルを検討することにより、各計画の長所・短所が比較検討でき、現計画より影響の少ない計画に変更できる可能性がある。
- ・外環整備にあたってはETCの義務化や制限速度を下げるなどの従来の高速道路の常識にとらわれない対応をしてほしい。
- ・ジャンクションの構造（全面地下化、半地下化、ループ化など）について複数の案をもとに、比較しながら検討できると分かりやすい。
- ・東名高速道路もあわせてジャンクション部分を地下化するなどにより、環境悪化を最小限にしてほしい。

計画検討の進め方

(2) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

環境施設帯の計画地内の良好な樹林を最大限残したり、新たに高木を植えて外環道の周りを緑豊かなゾーンを形成したりすること等により、大気汚染の緩和や現況の緑ある生活環境をできるかぎり保てるように。原風景である田畑や雑木林を復元（代替）し、動植物・昆虫等の生態系が保全されるように。

環境

- ・環境施設帯に高木を植えることにより、外環整備後の大気質への影響を軽減することが期待できる。
- ・環境施設帯に桜を植えることにより、将来、人が集まる魅力的な場所になり、地域にとってはメリットがある。
- ・既存樹木をなるべく多く残すことにより、外環整備による潤いある生活環境の喪失を防ぐことができる。
- ・環境施設帯に高木を植樹するなどにより、外環整備による大気質の汚染、景観の悪化に配慮した計画としてほしい。
- ・現在の農地を活用して緑豊かな大規模公園を整備するなど、外環整備により失われる緑を代替する緑を創出してほしい。
- ・特にジャンクション部は、盛り土構造で法面を緩い傾斜にすることによって植樹を増やし、周辺の殿山等の自然と一体的な緑豊かな地域環境が形成されるように事業を実施してほしい。

(3) 周辺部の計画

【課題解決のための考え方】

平穏さを壊すだけでなく大規模商業施設等の立地を誘発して豊かな自然や景観を大きく損ねる外環周辺の新規の道路整備を極力行わないように。生産緑地を買取るなどして排出ガスを吸収する農地や緑地を極力保全するように。喜多見地区の交通面からの平穏が保たれるように。学校の移転も含め、喜多見小学校の子供たちの健康に配慮した良好な環境が保たれるように。

交通

- ・外環整備に伴う周辺の新規道路を行わなければ外部からの自動車が流入しないので、交通量増大に伴う諸問題の発生を防ぐことができる。

環境

- ・道路から近い喜多見小学校が外環開通により、さらに大気質が悪化することが想定される場合、影響がより少ない場所に移転することにより、こどもたちへの健康被害の心配が軽減できる。
- ・喜多見5丁目を中心として、公園や農地による緑環境の確保をすすめるなど、大気汚染を緩和する対策を講じてほしい。
- ・仙川及び野川の両岸に植樹し、右岸に次大夫堀公園一帯の緑をつなぐ良好な遊歩道を整備するなどにより、緑と触れ合える環境をつくってほしい。

まちづくり

- ・バス路線（例：成城学園前～二子玉川）を新設するなどにより、外環整備により分断される地域の交通利便性を向上させてほしい。
- ・ジャンクション周辺など外環道により分断される最寄のバス停までのルートに代替するバス運行を検討するなど、地域の交通利便性を確保してほしい。

(4) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

空気の集まりやすい場所への集中的な大気汚染や、換気所の故障時などのリスクをできるだけ回避するような換気計画を。

環境

- ・他地区を含め換気所を分散配置することにより、喜多見地区の大気質悪化のリスクを現計画より軽減することができる。

安全・安心

- ・トラブル発生時のために換気所のリスクを分散した方がよい。

(5) 調査

【課題解決のための考え方】

PM2.5に関する最新の知見をもとに調査したり、また、換気塔からの排ガスによる大気質への影響検討のために換気所の分散配置や高さの違いによるシミュレーション、さらに、低周波による睡眠時等を含めた乳幼児・高齢者・病人等の心身への影響も考慮したシミュレーションによる厳密な予測を行うなど、様々な角度から影響を検証することで健康被害を生じさせないように。シミュレーションはソフトだけでなく、実物の模型を制作し風洞実験等を行い、その結果と実際の誤差の改善も図るよう。

環境

- ・換気所を分散配置した場合の分析により、喜多見地区における大気質による影響のリスク軽減が可能かどうか厳密に検討することができる。
- ・模型を利用した風洞実験を行うことにより、適切な換気所の高さ等を検討することができる。
- ・地域の特性を踏まえた様々な気候条件によるシミュレーションを行うことにより、大気質への影響について厳密に分析・検証でき、適切な換気所の高さ等を検討することができる。
- ・排気ガスが周辺地域の温度に与える影響を調査してほしい。

計画検討の進め方

- ・大気質に関する観測を行う測定器を国分寺崖線と外環に挟まれる地域

に設置して、地域の大気質の状態を管理してほしい。

- ・大気質に関する観測データを時系列で整理し、不足するデータは補うなどにより、不安を解消してほしい。
- ・東名高速道路開通前後の騒音データと測定方法を参考に、外環整備による騒音の増加量を的確に推定してほしい。

(6) その他

【課題解決のための考え方】

東名高速以南の外環整備の同時施工を検討する等により、周辺地域への諸影響が大きくならないようにし、外環による大気汚染による子供たちの健康被害などが防げるように。

交通

- ・東名以南の外環計画はアクアラインに直結するなど、利便性の高い計画にしてほしい。

環境

- ・東名以南の外環計画は大深度地下を利用した道路にするなど、環境に配慮した計画にしてほしい。

計画検討の進め方

- ・東名南伸を同時に検討することにより、外環建設による地域への影響を軽減することができる。
- ・計画の変更を地権者や地域住民など直接影響がある関係者に周知してほしい。
- ・将来における大気質の推定データから想定される将来のおおよその環境を疑似体験できる地点を示してほしい。
- ・地域住民が納得するまで、計画内容や経緯を説明してほしい。
- ・東名以南を整備した場合の構造物も考慮して検討すべきである。

(7) トンネル部

【課題解決のための考え方】

トンネルを2層構造とする等により、振動や低周波をはじめとした環境への影響が軽減されたトンネルに。その場合は、その構造の有効性等の根拠がわかるように。

外環の構造を含めた十分な交通事故予防対策が図られるように。特に、大深度地下での交通事故発生時に被害拡大が懸念される大型車や危険物運搬車両に対して通行規制の検討を。

環境

- ・計画線を野川の下部にしたり、トンネルを2層構造とする計画に変更したりするなど、低周波音や振動の問題を軽減した計画にしてほしい。
- ・環境に配慮した車の通行の優遇制度など環境問題に対する先進的な取り組みを期待。

(8) 工事中

【課題解決のための考え方】

工事中に発生が懸念される被害等についての情報公開を。

工事中

- ・工事中に発生が予想される酸欠空気、硫化鉄による硫酸の噴出、膨大なコンクリートによる水質汚染等についての情報公開を。

(9) その他

【課題解決のための考え方】

他省を含めた課題検討会を開催しながら、今後も住民等が関わり続けられるように。また、日本でも設計コンペ等で住民側が代替案をつくらることができる方策がとられるように。さらに、行政責任者は同一者が長期にわたり事業に携わるように。

計画検討の進め方

- ・課題検討会その後。今後も何らかの形で検討に関わり続けるために課題検討会アフターを続行すること。その際は以下の実施形態を採用すること（本来のP1に戻る）

- ①他省も含めた検討会：今までの国交省主催の課題検討会で得た問題点を叩き台として、責任ある回答を得るため、今後は他省（環境省、厚生労働省、財務省等）が一同に集まる検討会議とする。
- ②住民側も設計業者を指定可とする：設計案もコンペで募集する、あるいは住民側が設計業者を選択して経費は行政側が支払う方法をとること。外国には住民側が代替案を法律化している。
- ③行政側責任者の長期化：行政側の責任担当者はプロジェクトが終了するまで長期間にわたり同一者とする。

Fグループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

砦公園を使った計画や連結路の1本でも2本でも大深度になる工夫を試みるなど、できるかぎり大深度や地下を活用するような様々な計画を考えることで、地下水の分析等の環境等の問題の発生確率を限りなく小さくさせると同時に景観やまちづくりへの影響を小さくできる。また、結果として立ち退きも大きく減少しコストダウンにつながる。

環境

- ・上り、下りのうち1本でも大深度のままで砦公園や多摩川の下を通して川崎につなぐことでジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分も少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
- ・南行きの東名上りと北行きの上り線を砦公園で下げ大深度でつなぐことで、ジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分を少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
- ・連結路の1本でも2本でも大深度のまま通し（東名高速に連結する一部分だけ地上に出る）、検討すべき課題のほとんどを解消する。
- ・掘割際に蓋をかけ、排気ガスの漏れ出しを減らすことが重要。
- ・全面地下化や東名以南の計画を進め、検討すべき課題（案）にでている大半の課題を解決する。

まちづくり

- ・上り、下りのうち1本でも大深度のままで砦公園や多摩川の下を通して川崎につなぐことでジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分も少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
- ・南行きの東名上りと北行きの上り線を砦公園で下げ大深度でつなぐことで、ジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分を少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
- ・連結路の1本でも2本でも大深度のまま通し（東名高速に連結する一部分だけ地上に出る）、検討すべき課題のほとんどを解消する。

安全・安心

- ・上り、下りのうち1本でも大深度のままで砦公園や多摩川の下を通して川崎につなぐことでジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分も少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
- ・南行きの東名上りと北行きの上り線を砦公園で下げ大深度でつなぐことで、ジャンクションの規模を小さくし、地上権にかかる部分を少なくする。大深度化により残った地上部は緑化や街づくりなどに有効利用する。
- ・連結路の1本でも2本でも大深度のまま通し（東名高速に連結する一部分だけ地上に出る）、検討すべき課題のほとんどを解消する。
- ・ジャンクション部の複数案を提示し、意味のある議論を進める。
- ・全面地下化すれば検討すべき課題（案）にでている大半の課題が解決する。

計画検討の進め方

(2) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

PM2.5 への対応など、良好な大気環境を保全するとともに、換気所からの騒音に配慮を。

環境

- ・換気所の性能に関して市民が理解し納得できる説明をし、換気所の現状計画における排気ガス処理方法・能力に対する住民の不安を軽くする。
- ・換気所の箇所数を増やすことで、中央高速から東名高速までの排気ガスを1箇所ですべて処理していた負荷を分散することができる。中央環状線の例を見て現在の換気所の処理能力に対する住民の不安に応える。
- ・換気所に脱硝装置、フィルターなどを設置し、換気所の排気ガス処理方法・能力を高める。
- ・排気ガスの処理方法について市民が理解し納得できる説明をし、排気ガスの漏れ出しに対する住民の不安に応えることが重要。
- ・換気所の性能に関して市民が理解し納得できる説明をし、換気所の騒音に対する住民の不安を軽くする。
- ・換気所の箇所数を増やし、1カ所あたりの規模が小さくなることで、騒音への影響が低減することを期待。
- ・換気計画における危機管理、リスク対策について既存の説明文だけでは読み取れない。理解できないことへの不安、不満がある。換気計画

には、人的ミスや機械の故障があった時の対応策も含めることが重要。また、換気所のフィルターが目詰まりして換気能力が低下し、料金所付近から排ガスが流出しないか心配。換気所のフィルターが目詰まりした場合の対策を知りたい。換気所が1カ所しかないことで災害時や故障時に換気ができなくなることが心配。

(3) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

緑化を行うことなどにより、動植物への影響を抑え、現在の生態系の保全を。

環境

- ・現在の生態系を保全できるよう緑化対策を行いたい。緑の減少により、鳥のえさとなる虫が減り、結果鳥も減ってしまう。

(4) 調査

【課題解決のための考え方】

大気質や地下水による動植物への影響が、計面前・工事中・供用後を通して継続的に、かつ詳細に把握できるように。

環境

- ・東名高速からの排気ガスの状況を考慮して計画検討し、現在の排気ガスの影響も考慮した計画にすることが重要。
- ・換気所から吹き上げられた排気ガスが、海風によって地域に流される影響を考慮し換気所の能力や高さなどを検討することで、少し離れた成城から日大商学部あたりに落ちるのではないかと住民の不安に 대응することが重要。
- ・排気ガスの影響を的確に調査できる地点で継続的に観測し、現状の排気ガスの影響に関する住民の不安を軽減することが重要。
- ・野川や湧水の水質を守ることで、動植物の生息環境も守られる。
- ・野川周辺に生息しているオオタカをはじめとした、ウグイス、カッコウ、モズクなどの野鳥の生息環境を残すことが重要。
- ・PM2.5について東名ジャンクション付近で測定し、PM2.5の影響に対する住民の不安に 대응（基準を厳しくする）ことが重要。

計画検討の進め方

- ・換気所からの排気ガスと東名高速道路などからの現状で出ている排気ガス影響も考慮した調査を要望。
- ・本来調査すべき、影響を受けるであろう場所で調査をまだしていない事への不安、不満があるので、大気質調査については、今回の計画により最も影響が懸念される大正橋付近でも調査してほしい。
- ・調査地点を次大夫堀公園からジャンクション付近に変更するなど、ジャンクション設置による環境影響評価を現計画に即して的確に把握してほしい。
- ・排気ガスの影響については、換気所からの排気のみならず東名高速道路からの排気ガスなど、影響が広範囲にわたることを考慮し、現状の影響も考慮した調査をしてほしい。
- ・世田谷通り周辺の谷戸部分に現状でも汚染された大気の流れ込んでいるのではないかと環境への懸念に対して、平面だけでなく立体的（地形を考慮）に見るなど、十分な調査が必要である。

(5) 工事

【課題解決のための考え方】

工事中に何らかの影響が出た時のすばやい対応や住民に情報提供・情報開示すること等により、住民の不安に 대응できるように。工事車両の集中による影響がないように。

環境

- ・ジャンクションを全面地下化すれば谷戸に排気ガスがたまることが解消される。
- ・ボーリング調査地点を大深度、浅深度の部分の両方に増やすことで、外環の整備による地下水への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
- ・野川や湧水の水量に関する工事前後の水質を調査することで、外環整備の水量への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
- ・地下水の上下変動に対する影響を調査することで、外環の整備で地下水の水位が上昇し、東京駅のようにトンネルの構造物が浮いてしまうのではないかと住民の不安に 対応する。
- ・ジャンクションを地下化し、谷戸に排気ガスがたまることが解消される。
- ・ボーリング調査地点を大深度、浅深度の部分の両方に増やすことで、

まちづくり

安全・安心

外環の整備による地下水への影響に対する住民の不安に 대응するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。

- ・野川や湧水の水量に関する工事前後での水質を調査することで、外環整備の水量への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
- ・地下水の上下変動に対する影響を調査することで、外環の整備で地下水の水位が上昇し、東京駅のようにトンネルの構造物が浮いてしまうのではないかと いう住民の不安に 対応する。
- ・ボーリング調査地点を大深度、浅深度の部分の両方に増やすことで、外環の整備による地下水への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
- ・野川や湧水の水量に関する工事前後での水質を調査することで、外環整備の水量への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
- ・地下水の上下変動に対する影響を調査することで、外環の整備で地下水の水位が上昇し、東京駅のようにトンネルの構造物が浮いてしまうのではないかと いう住民の不安に 対応する。

工事中

- ・東名高速道路に工事用車両の搬出入経路を設置し、周辺地域への工事車両の流入を抑制する。
- ・周辺地域において、工事車両による事故など、日常生活への影響が懸念される。工事車両数が非常に多いので、搬入出は東名高速道路に直行するなど、周辺地域の道路に工事車両が流入しないよう考慮してほしい。

計画検討の進め方

- ・工事中・供用後のモニタリングを徹底し、何らかの影響が出た時にすばやく対応が取れるように、また、住民に情報提供・情報開示されることで住民の不安に 対応する。

(6) 管理

【課題解決のための考え方】

外環ができてから何らかの影響が出た時のすばやい対応や住民に情報提供・情報開示すること等により、住民の不安に 対応するように。

環境

- ・ボーリング調査地点を大深度、浅深度の部分の両方に増やすことで、外環の整備による地下水への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。

計画検討の進め方

に、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。

- ・野川や湧水の水量に関する工事前後での水質を調査することで、外環整備の水量への影響に対する住民の不安に 対応するとともに、もし影響が出た場合の対策をすぐ取ることができる。
- ・地下水の上下変動に対する影響を調査することで、外環の整備で地下水の水位が上昇し、東京駅のようにトンネルの構造物が浮いてしまうのではないかと いう住民の不安に 対応する。
- ・工事中・供用後のモニタリングを徹底し、何らかの影響が出た時にすばやく対応が取れるように、また、住民に情報提供・情報開示されることで住民の不安に 対応することができる。

(7) その他

【課題解決のための考え方】

東名以南の整備などにより、東名東京インターチェンジ周辺地域への影響を抑えられるように。
道路整備以外の方法の検討により、地域の渋滞が酷くならないよう。
市民の意見を聴きながら検討を。

交通

- ・用賀周辺の渋滞や交通集中問題と東名以南の整備を同時に考えてほしい。
- ・東名以南を計画する際には、インターチェンジ設置など、周辺住民の利便性向上を考慮してほしい。

計画検討の進め方

- ・東名東京インターチェンジ周辺の人々など、ジャンクション周辺地域以外で外環整備の影響を受ける人々へ意見を聞くなど配慮してほしい。
- ・交通渋滞解消策として道路造り以外の方法（人口集中軽減、公共交通機関などへの乗り換えなどのソフト対策など）も考慮して計画を立てることが重要。

Gグループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

ジャンクションの全面地下化という可能性の薄い提案ではなく、ランプ部分を東名の下をくぐらせジャンクションの半地下化や東名本線やランプの蓋架けなどの方策について検討し、現実的な排気ガスや騒音等の環境への影響の軽減を。

環境

- ・料金所も含めて半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
- ・ランプは東名高速の下を通り、可能な限り地下や道路に蓋を被せて半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
- ・東名などの道路に蓋をかけることにより、現在想定される排気ガスや騒音被害が軽減されることを期待する。
- ・東名以南の計画条件を定めた上で東名以南と一体化した東名ジャンクションの料金所、換気塔、半地下化について検討する。
- ・半地下化することで、現在想定される排気ガスや騒音による環境被害のほとんどが軽減される。
- ・景観上の配慮は、東名以南開通後のフルジャンクションの姿を前提に検討しないと適切に指摘できないのではないかと懸念がある。
- ・ジャンクションは東名高速道路より高い位置を通るので、高さの面で景観上懸念がある。景観上は出来るだけ地上部に道路が出ない方が望ましい。
- ・ジャンクションを半地下化することで、殿山などへの影響を軽減する可能性が期待される。
- ・グループ間で足並みそろえた半地下化の主張を展開することで、地域が重視していることを十分に行政に伝える。

計画検討の進め方

(2) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

東名以南の完成を前提として換気所の能力を確認するとともに、換気所の設置方法を再検討することにより換気所の箇所数を増やすなど、地域の大気汚染のリスクを最大限回避できるように。

環境

- ・東名以南も含めた排気量による大気への影響を検討し、フルジャンクション時の環境に対する影響を踏まえて対応する。
- ・換気所の処理能力は、処理する排気ガス量に比例すると思われるため、換気所を分散することで解決する。
- ・隣接する殿山の高さなどを考慮したとき、30mの高さで排気が十分拡散するか、懸念がある。

(3) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

環境施設帯を緑化することで、地域の環境資源の減少を抑え、地域の憩いの環境創造につなげられるように。

まちづくり

- ・野川に沿った地域の憩いの環境から遠ざけられることを懸念する。
- ・環境施設の一部で貸農園等の開放を期待する。
- ・ドッグランの開設等人と動物とのコミュニケーションを育める場の創出を期待する。

環境

- ・環境施設帯は、年間を通じて二酸化炭素を吸収する常緑樹による緑化をしてほしい。

(4) 周辺部の計画

【課題解決のための考え方】

東名東京インターチェンジ出入り口で動線を確保するなど実効性のある方法で、地域の渋滞問題の解決を。

交通

- ・外環を整備しても、東名東京インターチェンジ出口の道路整備による自動車動線を確保しなければ、根本的な渋滞は解消しないのではないかという懸念がある。
- ・現在でも混雑している世田谷通りなどの渋滞が激しくならないか心配である。

(5) 調査

【課題解決のための考え方】

国分寺崖線などの地形や高架の東名高速道路の存在などのほか、季節風や台風時の風など、地域の固有の条件を踏まえた、ていねいな調査、シミュレーション予測・検討を。

環境

- ・地域特有の風向きや、台風などの特別な場合を踏まえていない排気ガスの拡散シミュレーションに懸念がある。
- ・緑と水の拠点が連続する環境資源を総合的に保全できるように、地域の環境を総合的に確認、点検していくことが望まれる。
- ・喜多見地域の地下水の影響のある武蔵野台地（成城台地）の深層水の分布範囲と礫層を構成する岩石の組成を調査することを期待する。

計画検討の進め方

- ・地域特有の風向きや、台風などの特別な場合について再認識をし、地域の不安を取り除くていねいな調査、シミュレーションをすることを希望する。

(6) その他

【課題解決のための考え方】

様々な課題を総合的に検討、解決するため、課題の重要度について認識の共通化を。特に①大気質の確保と、②ジャンクションの半地下化、③東名以南の延伸計画との同時検討については重要。移転が想定される世帯に対しては、早い段階から一軒一軒に的確な情報提供や話し合いの場の設定により、生活不安の解消を。実際の道路の供用後の状況を踏まえた説明などにより、地域住民の理解を進める努力を行い、また最新技術を取り入れた対策の検討を。

交通

- ・少なくとも第三京浜まで開通することで、東名ジャンクションの規模や環境負荷が軽減すると期待できる。

用地・補償

- ・補償について話し合う場を早い段階から設定し、方針を明確にすることにより、移転世帯の不安を解消し、生活設計をしやすくする。
- ・移転が想定される地域において、計画の進捗状況や、移転の不安などに対して公有地などの情報提供を行うなど、移転対象世帯の抱える不安を解消して、生活設計がしやすくなるように配慮する。

計画検討の進め方

- ・様々の課題を総合的に検討、解決するためには、課題の重要度を共通認識として持つことが必要である。Gグループでは次の3つを相互に関連する最重要課題と捉えた。
 - ①地域の住民の生命・健康を守るためには、大気質が最も気かりであり、大気質の確保が必要である。
 - ②大気質をはじめとした様々の課題を総合的に解決する現実的な方策は、ジャンクションの半地下化である。
 - ③換気所必要量や景観など具体的な検討を行うためには、東名以南の計画を同時に行うことが必要である。東名以南、第三京浜までの同時着工をすることで、地域の環境負荷の軽減も期待できる。
- ・中央環状等の他事例の計画段階と供用後の環境に関する問題や課題を把握することで、わかりやすい課題の説明を行い、また、計画時点ではなく現時点の最新技術を取り入れた対策を検討する。

Hグループ

(1) ジャンクション部の計画

【課題解決のための考え方】

砦公園、仙川の地下を通すなどジャンクション部の地上部分の合計距離を最小限に抑える構造とすることで、自然環境や大気環境、及び、良好な景観を保全しつつ、農業が継続できるような環境を。防災上も重要な土地として農業用地が縮小しないように。

環境

- ・地上部分の合計距離を最小限に抑えるための構造とし、排気ガスの懸念を解消することが重要である。
- ・東名下り方面との接続部分は、多摩川近くで地上の東名と接続させることによって、排気ガスの懸念を解消できる。
- ・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中野田橋あたりから砦公園、仙川の地下を通して東名と接続させることによって、排気ガスの懸念を解消できる。
- ・都心方面から外環の中央道方面に向かう路線を早めに地下におろして仙川の下を通すことによって、排気ガスの懸念を解消できる。
- ・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中止することによって、排気ガスの懸念を解消できる。
- ・水や空気、動植物の自然の観点からは地下化が望ましい。地下化について真剣に、本気に検討することを期待する。
- ・環境保全を優先し、東名ジャンクションを地下化してほしい。

まちづくり

- ・ジャンクションによる景観への影響が心配なので、中央環状線も完全地下化になったのだから、東名高速道路も地下でつなげる事も含めてジャンクションの（完全）地下化を真剣に検討することを期待する。
- ・地上部分の合計距離を最小限に抑えるための構造とし、農業用地が縮小されることへの懸念を解消することが重要である。
- ・東名下り方面との接続部分は、多摩川近くで地上の東名と接続させることによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中野田橋あたりから砦公園、仙川の地下を通して東名と接続させることによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・都心方面から外環の中央道方面に向かう路線を早めに地下におろして

安全・安心

仙川の下を通すことによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。

- ・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中止することによって、都心への車の流入を少なくし、かつ、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・計画線の中にある現在の農地で農業を続けたい。中央環状線も完全地下化になったのだから、東名高速道路も地下でつなげる事も含めてジャンクションの（完全）地下化を真剣に検討することを期待する。
- ・地上部分の合計距離を最小限に抑えるための構造とし、防災的にも大切な農業用地が縮小されることへの懸念を解消することが重要である。
- ・東名下り方面との接続部分は、多摩川近くで地上の東名と接続させることによって、防災的にも大切な農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中野田橋あたりから砦公園、仙川の地下を通して東名と接続させることによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・都心方面から外環の中央道方面に向かう路線を早めに地下におろして仙川の下を通すことによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・外環から東名の都心方向へ向かう接続路を中止することによって、農業用地が縮小されることへの懸念を解消できる。
- ・東名ジャンクションを（完全）地下化、野川の下で地下化する方向で計画検討してほしい。

計画検討の進め方

(2) 環境施設帯の計画

【課題解決のための考え方】

環境施設帯を農地として利用するなど、農業の継承の観点から、地域とのつながりを持てるような配慮を。
里山的な樹林帯や緑地公園などを整備し、猛禽類の移動の中継ポイントとなるような自然や生態系に配慮した緑地空間づくりを。

環境

- ・ジャンクション部分を築山にし、景観や、自然環境（動植物の生態系）への懸念を解消することが重要である。
- ・残土の有効活用を行い、ジャンクションとその周辺を地下掘削の土砂を利用し、山、丘陵化し、里山的な樹林帯、森林公園化してほしい。
- ・工事の残土で換気所周辺を大規模な緑地の山をつくるなど、新しい景観形成を図ってほしい。
- ・遮音壁の両側に景観への配慮のために常緑樹を植えることを期待する。
- ・サザンカ、ツバキ、お茶類などの茶毛虫のつかない植物を植えつけてほしい。
- ・環境施設帯を広げ丘陵化し緑地帯として、殿山地区を中心に、猛禽類の移動の中継ポイントになるような地域として整備すること期待する。
- ・東名高速道路の高架下のような陰気な空間になる事が懸念される。どうしてもジャンクションを地上化するのであれば、「東名ジャンクション丘陵」として緑の丘陵化として整備することを期待する。
- ・環境施設帯にコミュニティー施設など計画するなど、地域コミュニティーの活性化をしてほしい。
- ・換気所周辺に緑地公園を建設するなど、地域の憩いの場にしてほしい。
- ・環境施設帯を農地として利用し、代替地をもらった場合にも農業の継承が可能になることを期待する。また、学校給食への地域の農業生産物の提供を持続できることを期待する。

まちづくり

用地・補償

(3) 換気所の計画

【課題解決のための考え方】

換気所の設置により、地域の大気環境が大幅に悪化することがないように。

環境

- ・換気所を増やし、大気質の問題や、喜多見地域に排気ガスが集中することへの懸念を解消することが重要である。

(4) 調査

【課題解決のための考え方】

大気質、地質、地下水に関しては、調査箇所を増やすことやシミュレーションを用いて詳細に検討することなど、より詳しく影響が把握できるような調査を。観測地点を増やすために、住民が参画する調査の実施も。

環境

- ・最近の大雨データや、将来の大雨予想を踏まえたシミュレーションを実施し、大雨時の排水能力に対する懸念を解消することが重要である。
- ・野川周辺は、地下水の構造が毛細血管のように張り巡らされて、川底も湧水や沈水があるなど複雑である。そうした地下水は貴重な資源である。現在の環境影響評価書はボーリング調査なども不足しており、そうした複雑な地下水に配慮した評価結果ではない。地下水と地下構造物についてのボーリング調査の箇所数を増やすなど綿密な詳細な調査を期待する。
- ・東名高速道路ができたことによって光化学スモッグが発生しやすい地形であることも解った。現在でも外環現象が現れていることから、東名ジャンクションにより、地形的にもより一層の大気汚染が懸念される。より詳細な大気シミュレーションのやり直しを期待する。
- ・ボーリング調査が少なすぎるので、例として、等々力渓谷と同じ位の大切な自然遺産である国分寺崖線に関する本調査においても、等々力駅地下化検討でされた調査と同等の調査数などを期待する。
- ・成城地域を含め、ボーリング調査の箇所数を増やすなど、地下水の調査をもっと詳しく行ってほしい。
- ・深層地下水のシミュレーションについても、近年の気象条件の変化など、3年前の大雨のデータが反映されていないことが懸念される。今のあいまいな前提条件での評価結果でも、危険性が懸念されるため、詳細な説明をしてほしい。
- ・東名高速道路について、今までの大気質の観測地点を増やす事を期待する。
- ・ジャンクション計画においては、大気質の観測地点を増やしてほしいという住民の要求に応える事を期待している。また、住民もそうした調査に関することにも参画したいし、参画に協力してもらえることを期待する。
- ・地盤調査の方法に対して不満であり、詳しく調査してほしい。

計画検討の進め方

(5) その他

【課題解決のための考え方】

東名以南も含めたスケジュールや、補償や税制措置などについて住民への詳細で丁寧な説明を。

用地補償

- ・ 移転補償や事業に伴う税制措置が事業主体や事業のやり方、事業時期などによって変わると聞いているが、国の事業である事を明確にし、補償や税制措置などがよくわかるような説明を期待する。

計画検討の進め方

- ・ 東名以南の開通時期や工事時期などのスケジュールについて教えてほしい。